

系

議員活動報告
第1号

庄原市議会議員

政野ふとし

～未来をつくる・つなぐ～



平成二十五年四月に皆さまにご支援頂き、庄原市議会議員となり、早一年半が過ぎました。一期目の新米議員ではありましたが、本会議での一般質問、また常任委員会や日々の議員活動を通じ、市民の皆さまの声を市政に届けていくことが出来ました。これも一重に、市民の皆さまの声援があったこそです。まずもって心より感謝を申し上げます。

さて、庄原市も平成十七年の合併より十一年が経過しました。平成二十八年三月には、「庄原市第二期長期総合計画」も策定され、これから十年の市政の方向性も示されました。庄原市だけの問題ではありませんが、近年の急激な人口減少という課題への取組が最重要で無いでしょいか。これは単に「インターン、Uターン者」によって定住者を増やすという事ではなく、現在住んでいる市民が幸せに暮らしていることを目指し、の仕組を構築することが大切だと私は考えています。市民の皆さまの市政への参加によってこそ実現できる事です。庄原市議会議員として、その架け橋となるべく活動をしていく所存です。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

まさの政野ふとしプロフィール

会派：清政会
所属：企画建設常任委員会（副委員長）・議会運営委員会・備北地区消防組合議会議員・木質バイオマス利活用プラント整備補助事業調査特別委員会

超高速情報通信網整備の事業費

全体事業費	40億5千万円
（内訳）	
通信事業者への補助金	24億9千万円
住民サービス接続に係る初期費用	5億6千万円
住民告知システム整備費用	10億円

原市にとつては、大きな事業の一つです。しかしながら、活用した施策

が今ひとつ乏しいのが現状です。これまで整備する事に重点が置かれてきましたが、今後はこの高速通信網を利用したサービスの充実が求められます。例えば、議会に関しては常任委員会や、議員全員協議会などの音聲放送も可能です。ほかにも商業振興のための宣伝放送、またイベント宣伝のための放送など、多くの可能性があります。その様な提案を行っていきたくと考えていますので、皆さまのご意見も頂ければ幸いです。

国への補助金返還となった庄原市の木質バイオマスプラント整備事業は、失策であったと言

ひかりファイバー通信網については平成二十七年より、庄原市街地、東城市街地において整備が始まり、すでに利用をされている市民の方も多いため、整備最終年度の平成三十一年度には口和、高野、比和、総領地区の工事で市内全域に整備される事となります。しかし、非常時の伝達手段となる「住民告知放送端末」の加入者は、現加入者の〇割にとどまっております。特に以前からのオフトークなど、通信利用がなかった旧庄原市において加入者が伸びない現状にあるようです。

平成二十八年三月に、平成二十八年度、平成三十七年度までの庄原市の長期総合計画が策定されました。それにあわせ議会も、「第二期長期総合計画調査特別委員会」を設置し、全項目にわたって調査を実施し、議会からの意見提案を行いました。これからの十年間の中でも最大の課題は、人口減少です。国の研究機関が発表した庄原市の平成三十七年の推計人口は、三二、七〇〇人を目指す目標は三二、七〇〇人以上とされています。この目標に向かって、自治・協働・定住・産業・交流・環境・基盤・交通・情報・保険・福祉・医療・介護・教育・文化の視点から、まちづくりをすすめる基本事項、基本構想、基本計画、実施計画を総合的に記したものが「庄原市第二期総合計画」です。中でも「実施計画」が大変重要であると私は考えて

第2期長期総合計画における将来像

美しく輝く 里山共生都市
～みんなが“好き”と実感できる“しょうばら”～

目標人口

現在（平成27年10月） 37,741人 → 10年後の目標人口 32,700人以上

議会報告

政務活動費について

兵庫県議会議員の不正受給事件から始まり、毎日の様に全国で議員の政務活動費不正使用の報道がされている状況です。「記憶が無い」、「勘違いをしていた」と弁明をされ、さらには、

切認められています。その利用規程は大変厳しく定められています。厳しすぎるがゆえに生じる矛盾も無いとは言えませんが、市民の皆さまからお預かりしている大切な予算です。今後もその趣旨に違わぬ事無く有効的に活用していきたいと思っております。

学校適正配置について

平成28年5月に「庄原市学校適正配置検討委員会」が設置され、1ヶ月に1回程度会議が開催されています。少子化に伴う児童数の減少に対して、現在小学校19校、中学校7校をどの様に適正な配置にしていくかの検討を行っています。学校再配置については、様々な影響が考えられる事から大変デリケートな課題です。私個人的にもまだ答えを見つけない状況ですが、何より一番優先的に考えなければならないのが、「子どもたちが等しく教育を受ける権利」だと考えます。上に小学校児童数について記載しましたが、実はこの3年間（平成26年～現在）で出生数がさらに大きく減少している実態があります。検討委員会にお任せにするだけでなく、学校再編については、現役の保護者世代の意見、地域住民の意見をしっかり和集約しておく必要があると思います。現状と将来推計を確実に捉え、子どもたちの未来をつないでいくよう取り組んでまいります。

平成27年度庄原市議会政務活動費収支報告総括表

会派・議員	所属議員数	交付額	政務活動費項目別集計						合計	会派議員負担分	残余金返納額
			研究研修費	調査旅費	資料作成費	資料購入費	広報費	広聴費			
さすな	4	1,440,000	540,660 (2件)	1,529,687 (3件)	0	0	18,000 (1件)	0	1,601,753	161,753	0
市民の会	2	720,000	0	103,242 (4件)	0	260 (1件)	0	0	103,502	0	616,498
日本共産党	2	720,000	187,944 (4件)	0	0	30,523 (13件)	248,400 (2件)	0	466,867	0	253,133
清政会	8	2,880,000	1,139,388 (12件)	1,529,687 (6件)	0	141,332 (3件)	0	0	2,265,664	0	614,336
大志の会	2	720,000	0	401,399 (3件)	0	260 (1件)	0	0	401,659	0	318,341
横路政之	1	360,000	40,934 (2件)	200,697 (3件)	0	18,859 (4件)	0	0	260,490	0	99,510
吉方明美	1	360,000	41,926 (3件)	51,621 (1件)	0	0	0	0	93,547	0	266,453

平成28年度庄原市議会政務活動費収支報告総括表

会派・議員	所属議員数	交付額	政務活動費項目別集計						合計	会派議員負担分	残余金返納額
			研究研修費	調査旅費	資料作成費	資料購入費	広報費	広聴費			
さすな	4	1,440,000	540,660 (2件)	1,529,687 (3件)	0	0	18,000 (1件)	0	1,601,753	161,753	0
市民の会	2	720,000	0	103,242 (4件)	0	260 (1件)	0	0	103,502	0	616,498
日本共産党	2	720,000	187,944 (4件)	0	0	30,523 (13件)	248,400 (2件)	0	466,867	0	253,133
清政会	8	2,880,000	1,139,388 (12件)	1,529,687 (6件)	0	141,332 (3件)	0	0	2,265,664	0	614,336
大志の会	2	720,000	0	401,399 (3件)	0	260 (1件)	0	0	401,659	0	318,341
横路政之	1	360,000	40,934 (2件)	200,697 (3件)	0	18,859 (4件)	0	0	260,490	0	99,510
吉方明美	1	360,000	41,926 (3件)	51,621 (1件)	0	0	0	0	93,547	0	266,453

市内中学校生徒数

市内中学校校名	1年生	2年生	3年生	生徒総数
1 庄原中学校	147	127	158	432
2 西城中学校	26	36	14	76
3 東城中学校	59	64	64	187
4 口和中学校	15	20	15	50
5 高野中学校	14	12	21	47
6 比和中学校	12	7	6	25
7 総領中学校	13	16	15	44
中学校小計	286	282	293	861

平成28年7月1日現在

市内高校生徒数

市内高校校名	1年生	2年生	3年生	生徒総数
1 庄原格致高等学校	111	121	93	325
2 庄原実業高等学校	128	135	123	386
3 東城高等学校	35	32	36	103
4 西城紫水高等学校	22	25	28	75
高等学校小計	296	313	280	889

平成28年度広島県HPより
※庄原特別支援学校は未記載

庄原市内小学校児童数

市内小学校校名	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	生徒総数
1 庄原小学校	58	62	51	50	64	62	347
2 永末小学校	12	4	10	8	6	10	50
3 高小学校	5	10	8	10	8	7	48
4 板橋小学校	27	25	35	32	25	26	170
5 東小学校	24	13	27	19	27	18	128
6 山内小学校	13	6	9	10	10	7	55
7 川北小学校	3	1	5	7	2	3	21
8 峰田小学校	8	10	7	9	11	7	52
9 総領小学校	13	9	8	8	11	9	58
10 西城小学校	10	17	13	18	23	15	96
11 美吉登小学校	5	3	20	6	16	10	60
12 小坂可小学校	7	5	8	10	5	3	38
13 八幡小学校	2	4	5	3	6	2	22
14 栗田小学校	4	2	3	7	1	5	22
15 東城小学校	41	40	50	33	41	47	252
16 口南小学校	11	10	12	9	6	8	56
17 口北小学校	10	10	5	6	4	5	40
18 高野小学校	13	14	12	13	21	14	87
19 比和小学校	4	12	4	9	10	7	46
小学校小計	270	257	292	267	297	265	1,648

平成28年度広島県HPより

せ、地域を疲弊させます。結果として農林業、地域経済の衰退を生み、地域

領収書の桁を増やすなど言語道断です。庄原市でも、平成二十五年より政務活動費の活用がされています。庄原市議会の政務活動費は、飲食費用について一切認められず、按分も一

◇学校適正配置について
平成28年5月に「庄原市学校適正配置検討委員会」が設置され、1ヶ月に1回程度会議が開催されています。少子化に伴う児童数の減少に対して、現在小学校19校、中学校7校をどの様に適正な配置にしていくかの検討を行っています。学校再配置については、様々な影響が考えられる事から大変デリケートな課題です。私個人的にもまだ答えを見つけない状況ですが、何より一番優先的に考えなければならないのが、「子どもたちが等しく教育を受ける権利」だと考えます。上に小学校児童数について記載しましたが、実はこの3年間（平成26年～現在）で出生数がさらに大きく減少している実態があります。検討委員会にお任せにするだけでなく、学校再編については、現役の保護者世代の意見、地域住民の意見をしっかり和集約しておく必要があると思います。現状と将来推計を確実に捉え、子どもたちの未来をつないでいくよう取り組んでまいります。

◇ゴミ焼却場の新設
平成34年度供用開始に向け、現在庄原地域、東城地域にある処理場を一つにする計画が現在進んでいます。総事業費約50億円。本市にとっては大変大きな事業の一つです。その利用について、市民の皆さまにとって不便が無いよう取り組んでまいります。

わざるおえない状況となりまし
た。議会としては、その原因は
どこにあったのかを調査するた
めに、平成二十六年十月に「木
質バイオマス利活用プラント整
備補助事業調査特別委員会」を
設置し、全事業の調査、都度の
議会の対応、行政責任、議会責
任について調査を行いました。
委員会の最大の目的は、再発防
止にあると私は考えています。

これまでに委員会を二十回開
催し、一定の結論を導き、平成
二十七年三月の定例議会におい
て中間報告を行いました。主な
報告内容として、議会責任につ
いては、「執行者提案の補助金事
業に対する監視と点検作業が不
十分であったと、議会の議決責
任を痛感する。」しかし、「本事
案の最大の欠陥である国への補
助金返還となった原因について
は議会責任を問われたい。」とし
ました。個人の意見としては、
二元代表制である首長と議会の
関係性からすると、一方的にそ
の責任を問うという事はありえ
ないと考えています。道義的な
責任は執行者にも議会にもあり
ます。お互いにもその責任を認め
二度と同じ過ちを繰り返さぬよ
う再発防止のために互いが研鑽
する事が重要であると考えてい
ます。

現在、本事業に関連し、市民
団体より、現市長に対し「損害
賠償履行請求事件」とした住民
訴訟が行われています。調査特
別委員会としては、その動向に
注視しつつ、最終的な報告を行
う事としています。

として活躍される機会が
増えることを願うとともに
に、郷土への熱い思いを
胸に活躍する選手に対し
ては、引き続き市として
応援していく。

補足 この後、東城町出身のプ
ロ野球選手「谷繁元信」
氏に、庄原市市民栄誉賞
が贈られました。最近で
は、リオオリンピック競
泳女子平泳ぎ200mで
金メダルを受賞された「金
藤理絵」選手にも贈られ
ました。

平成二十六年九月定例会
本市の人口減少対策ならびに
定住対策について

質問 旧庄原地域以外の地域
でこの一〇年、大幅な
世帯、人口の減少が見
られる。定住対策効果を
より向上させるには地域
特性に応じた定住対策が
必要だと思いが考えを伺
う。

答弁 6つの自治振興区におい
て、市の補助制度を活用
し地域特性にあった定住
促進活動を展開されてい
る。地域の受入体制、生
活全般にわたってフォー
ローでできる仕組みづくり
を構築していく。

補足 現在は田森自治振興区に
定住支援員（移住定住コ
ンシェルジュ）の配置が
され、地域特性を活かし
た定住促進が行われてい
ます。

質問 平成二十六年九月定例会
本市の商工業振興について

企業振興条例」があるが、
地域産業の発展を促す条
例としては、現代に沿わ
ないものがある。現況に
かなうものになる様、地
域ぐるみで中小企業を重
し、支援する公の宣言と
して新たな視点の元、
条例改正をすべきと思
うが考えを伺う。

答弁 実態調査や商工業団体等
へのヒアリング、また市
民パブリックコメントの
実施など、新たな視点の
もと、地域全体の意見を
集約し、現状に沿った小
規模・中小企業振興条例
となるよう取組を進めて
いく。

補足 現在、事業所アンケート
等により情報集約中。平
成二十九年施行に向け
て取組が進んでいます。

平成二十六年十二月定例会
本市の教育施策について

質問 本市には0歳から18歳
までの子どもたちが五〇
〇〇人を越えて住んでい
る。子育て支援とは違う
視点で、子どもたちがそ
の利益を直接享受できる
ような施策が大切だと思
う。第一期庄原いちばん
基本計画では、教育・文
化に関する施策が希薄で
あった。第二期庄原いち
ばん基本計画における教
育施策はどの様に考
えているのか伺う。

答弁 第二期計画策定にあつ
ては、教育施策のさらな
る強化に重きを置くな
で、今年度実施した「庄
原いちばん談義」による
市民の皆さんの提言など



政野ふとしの一般質問

平成 25 年から現在までに、本会議において計 7
回、市長・教育長に対して一般質問を行いました。
質問内容については次の通りです。



本会議場での一般質問

平成二十五年六月定例会
超高速通信網整備に関する
今後の方向性について

質問 平成二十五年三月の議会
において、「新市長に委ね
るべきである」とされた
超高速通信網整備につ
いて木山市長の考えを伺
う。

答弁 市内の都市計画区域及び
支所周辺区域については、
民設民営方式で平成二十
八年度までに順次整備を
行う。知れ以外の区域に
ついては、携帯電話など
の通信技術や利用者の状
況に応じてエリアを拡大
していく。市民の声はも
とより、若者定住、企業
誘致を進める上でも必要
であると認識をしている。

質問 庄原市情報通信整備検
討委員会の報告書にも、
市内全域にサービスマ
ンに対する望ましいと意
見がある。それに対して
はどの様に対応してい
くのか。

答弁 この後、会派清政会の粘
り強い会派要望もあり、
市内全域に超高速情報通
信網が整備される事にな
りました。またフェイ
スブック「庄原いちばん
えね！」も開設運営され
ています。今後は、加入
率の向上、通信網のさら

補足 携帯電話通信網によつて
ほとんどのエリアをカ
バーできると考えている
効率的に光ファイバー網
と合わせた事業を行いた
い。しかし、100%カ
バーする事は難しいと考
えている。

平成二十五年九月定例会
庄原市の観光振興について

質問 市長が提唱している三本
柱の一つ、「にぎわいと活
力」について、特に観光
への深い思い入れがある
と認識をしている。策定
中の庄原市観光振興計画
の基本となる観光振興施
策についての考えを伺
う。

答弁 人口減少が進む中、地域
経済活性化策として、交
流人口を増やす観光の取
組が重要である。自然体
験、農家民泊、修学旅行
受入などの取組で、地域
の拡大を図り、地域経
済の活性化につなげたい。

補足 この一般質問においては、
庄原市の強みをどこに置
いて振興策を実施するの
か、また、観光と農林業、
商工業の連携した観光施
策の実施提案を行いました。

平成二十五年九月定例会
庄原市まちづくり
プランナーモニター事業につ
いて

質問 庄原市では、市民からイ
ンターネットを利用した、
市の事業に対する評価や
提案を受け付けています。
インターネット環境があ
る方は是非登録して、市
に対して提案を行いま
しょう。市の施策の参考
となります。

補足 庄原市では、市民からイ
ンターネットを利用した、
市の事業に対する評価や
提案を受け付けています。
インターネット環境があ
る方は是非登録して、市
に対して提案を行いま
しょう。市の施策の参考
となります。

平成二十八年六月定例会
教育振興施策について

質問 学校と地域の連携をより
効果的なものにするため
に「学校運営協議会」(コ
ミュニティスクール)の
導入を検討してはどう
か。

答弁 各学校では、教育活動の
情報発信、様々な機会を
捉え、PTAや自治振興区
の方とも意見交換を行っ
ている。市内全ての学校
に「学校運営協議会」や
「学校関係者評価委員会」
もあり、学校運営協議会
と同様の運営が行われて
いる。より一層関係者
との連携を深め、教育を
活性化していきたい。

補足 この質問は、平成二十六
年十二月にも同様の質問
を行いました。私がなぜ
「学校運営協議会制度」の
導入に思いを抱いている
かと言うと、私自身、こ
れまで小学校、中学校で
地域の住民として学校
に携わってきた経験から
です。現代社会において
子どもたちを取り巻く複
雑化は学校だけでは難
解決は感じています。理
解をされ、教職員の方も
す。また、それぞれの地

を参考にし、多様な教育
施策をあげてまいりたい
と考えている。

補足 東城保育所、東城小学校、
東城中学校、東城高校の
保護者で組織された団体
で、市長に直接提言でき
る「庄原いちばん談義」
に申込み、開催された。
そこで提言した「小中
校における読書活動の充
実(図書館司書の配置)、
中学生の英語力の向上(英
検受験料への補助)、市内
県立高校の特色ある教育
振興への支援」が第二期
庄原いちばん基本計画の
もと施行されました。

質問 子どもたちの健全な育成、
また良好な学校運営を行
うためには、地域、学校、
家庭が同じ方向性のもと
で、熟議を重ね、実現さ
れると考える。現在のシ
ステム、学校関係者評価
委員会、学校評議員制度
をさらにステップアップ
させた「コミュニティ
スクール制度」の導入を
すべきと思うが考えを伺
う。

答弁 地域とともに学校づくり
を進めるには有効なツ
ルであると考えられている
し、しかし現制度で「コ
ミュニティスクール」の目
的は果たせている。

平成二十六年十二月定例会
本市の林業施策について

質問 本市の重要課題である「林
業振興」について、林業
が持つ多面性を市民の目
線から検討していく事も、
林業の活性化のみならず、

本市の活性化につながる
と思うが、考えを伺う。

答弁 森林が持つ公益的機能は、
日頃の生活の中で市民全
体が享受している何事
もかえがたい機能だと認
識している。事業の推進
については、委員会を設
置して、各市民団体
からも委員として参画
いただいている。市民や関
係団体、さらには他団
体の協働による取組が可
能であると考えている。
木の駅プロジェクトを一
つの契機としてとらえ、
森林活用による本市の活
性化につなげていきたい。

平成二十七年九月定例会
本市の定住対策及びそれらに
関する振興策について

質問 本市の人口減少対策と商
工業振興、農林業振興を
連携して進める事が、本
市にとって重要な課題だ
と認識している。定住施
策の展開にあたり、どの
様な連携を図っているの
か伺う。

答弁 定住対策は、庄原市の総
合施策である。各担当課
との情報共有を行っている。
互いの連携を図っている。
移住希望者が相談に来
るのを待つだけでは無く、
具体的な「庄原市ではこ
のような人材を求めています
」(例：うちの街には居
酒屋が無い。居酒屋を運
営してくれる人を募集す
る。すでに他自治体では
な手法を用いてはどうか。
庄原ではこんな暮らしが

公園、東城中央運動公園、
道後山クロカンパークを
はじめ、屋内施設をあわ
せると十七施設ある。い
ずれも本市が誇るべき施
設である認識すべき。
また中国道、尾道松江道
などのインターチェンジ
もない環境にも申し分
ない。環境性も申し分
口の拡大、地域づくり
資する事を目的とした有
効活用について考えを伺
う。

補足 本市の特性を活かしたス
ポーツイベントには、市
内外から多くの皆さんに
参加、観戦を頂いている。
社会的、経済的に大きな
効果を得ているものと受
けとめている。イベント
時だけでなく、年間を
通じて交流人口の獲得に
向け、指定管理者による
独自事業の連携など、新
体との相互連携など、新
たな手法、施策について
調査研究を進めていく。

質問 二〇二〇年東京オリ
ンピック開催に伴い、庄
原市として何からの招致活
動を行う予定はないか。
絶好の機会だとおらえて
いる。しかし不明な点も
多く、情報収集に努める
とともに、日本人選手を
対象とした合宿誘致の可
能性を調査研究を進める
べき。

答弁 庄原市出身者でスポーツ
界で活躍する選手に対し
て、庄原市としてどの様
に榮譽を讃えるのか、市
長の考えを伺う。